

附属病院検査部

Diagnostic Laboratory

97年3月、永年当院に勤務した検査技師長伊藤信一が定年退官し、同4月新卒者森大輔を技師として採用した。これに伴い、小規模の担当検査の変更を行った。

臨床検査オーダリングの開始に向けて、検査システムの大規模な変更を含む開発作業を行い、97年8月稼働した。

98年1月主に看護部からの要望により、昼休みの検査体制を変更した。

業 績 目 録

原著論文

1. 伊東義和, 吉河康二 (1997).
当院における乳腺穿刺細胞診の検討：組織診との不一致例について.
日本臨床細胞学会大分県支部会誌 7, 37-39.
2. 田嶋伸之, 櫛来英美, 平丸正宣, 原 美喜, 板井真由美, 諸井滋子, 高橋由紀, 杉田真一, 門田 徹, 辻 浩一, 横山繁生, 吉河康二, 大野傳一郎, 大島敏信 (1998).
高齢者の子宮頸部スメア中に見られる異型細胞集塊についての検討.
日本臨床細胞学会大分県支部会誌 8, 27-30.
3. 吉河康二 (1997).
スライドカンファランス.
日本臨床細胞学会大分県支部会誌 7, 50-51.

著 書

1. 吉河康二 (1998).
腎・尿路, 149-157頁, 廣川看護テキスト, 疾病の成り立ちと回復の促進, 病理学 廣川書店, 東京.

学会発表

1. 宮崎吉孝, 江崎一子, 吉河康二, 仲間 薫, 山本一彦 (1997, 4/10).
間質性肺炎における呼吸上皮特異的免疫反応の存在.
第37回日本胸部疾患学会総会, 横浜.
2. 江崎一子, 宮崎吉孝, 塩川佐斗志, 川畑仁人, 瀬戸口京吾, 恒川伸二, 中村教泰, 吉河康二, 三崎義堅, 山本一彦 (1997, 5/7).

- コラーゲン誘導関節炎マウスの関節局所に集積する T 細胞クロノタイプに及ぼすアクタリットの効果.
- 第42回日本リウマチ学会総会, 東京.
3. 安藤文隆, 上岡陽亮, 加藤秀則, 和氣徳夫, 吉河康二 (1997, 5/17).
卵巣および子宮内膜の重複癌の 2 症例における clonality の解析.
日本産婦人科学会九州地方会.
4. 鈴木康代, 小田和美, 吉河康二, 鈴木友和 (1997, 10/16).
アルカプトン尿症に対する新しい薬物療法の試み.
人類遺伝学会, 神戸.
5. 宮崎吉孝, 江崎一子, 吉河康二, 仲間 薫, 山本一彦 (1997, 10/29).
間質性肺炎における呼吸上皮特異的 T 細胞の肺内への集積.
第27回日本免疫学会, 札幌.
6. 江崎一子, 吉河康二, 岡田全司, 神宮政男, 延永 正, 山本一彦 (1997, 7/23).
関節炎モデルマウスにおけるリウマトイド因子および補体の役割に関する検討.
第34回補体シンポジウム, 福岡.
7. 江崎一子, 宮崎吉孝, 塩川佐斗志, 川畑仁人, 瀬戸口京吾, 吉河康二, 三崎義堅, 山本一彦 (1997, 10/29-31).
コラーゲン誘導関節炎感受性マウスにおける関節炎惹起生ペプチド特異性 T 細胞クロノタイプの解析.
第27回日本免疫学会, 札幌.
8. 宮崎吉孝, 江崎一子, 塩川佐斗志, 澤部俊之, 吉河康二, 高橋 智, 山本一彦.
呼吸上皮特異的に ovalbumin (OVA) を発現するトランスジェニックマウスの作成と解析.
第38回日本呼吸器学会総会.
9. 鈴木康代, 小田和美, 吉河康二, 鈴木友和 (1998, 1/25).
アルカプトン尿症に対する新しい薬物療法の試み.
別府ハーバーシンポジウム, 別府.
10. 勝田 猛, 森 正樹, 田中真二, 渋谷健二, 山縣基継, 原口 勝, 秋吉 毅, 吉河康二 (1998, 2/28).
Nipple Adenoma の 1 例.
第13回大分乳癌の集い, 大分.
11. 上田真信, 畠中正光, 大塚 誠, 吉河康二, 和氣徳夫 (1998, 3).
子宮筋層に限局し multilocular cystic pattern を呈した Low-grade endometrial stromal sarcoma の 1 例.
日本放射線学会九州地方会, 福岡.